

2020年1月より、新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)が拡大したことに伴い、第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略に位置付ける各種施策にも影響が表れている。

### 感染症によって影響があった施策

第2期総合戦略全体:73%(41/56施策) 基本目標毎に偏りはなく、施策全体に影響が表れている。  
 基本目標1:78%(14/18施策) 基本目標2:64%(7/11施策) 基本目標3:79%(11/14施策) 基本目標4:69%(9/13施策)

### 現状の対応について

#### ●標準的な感染症対策(検温・消毒・感染予防のための備品購入 等)

- ・切れ目ない子育て支援(基本目標3:施策番号02) ・地域子育て支援拠点等の整備(基本目標3:施策番号03)
- ・地域包括ケアシステムの構築(基本目標3:施策番号08) 等

### 今後の対応策について

#### ●デジタル技術の活用(オンラインでの講演・イベント・販売 等)

- ・若年層の就職支援(基本目標1:施策番号17) ・大学・高等学校等との連携(基本目標1:施策番号18)
- ・富山ガラスのブランド化(基本目標2:施策番号07) ・新商品開発に取り組む事業者への商品力向上研修(基本目標2:施策番号08)等

## 引き続き、感染症の克服と地域経済の活性化の両立の視点を踏まえ、第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略に位置付けた施策の推進を図る。

### 参考

国の地方創生臨時交付金(※)を活用し、感染防止対策、雇用の維持・事業の継続、経済活動の回復に取り組んでいる。 ※新型コロナ対策に奔走する地方公共団体の取組を支援するための国の交付金

### 地方創生臨時交付金を活用した取組について

#### 富山市の主な取組

##### ●「#コロナ転職」事業

【概要】市が窓口となり、新たな人材を確保したい農林水産業の求人事業者と新型コロナウイルスにより失業した求職者のマッチングを行う。

【背景】失業対策として、3密の環境になりにくい屋外での農作業等への就業を支援するとともに、担い手不足の解消を図る。

【工夫】可能な限り早期にマッチングを成立させられるよう、SNS等の情報媒体を活用し、素早く情報の拡散を行った。



##### ●新型コロナウイルス感染拡大防止キャンペーン事業

【概要】早急に感染拡大防止の対策を講じる必要があることから、メディア等を活用した啓発活動を行い、市民への周知を図る。

【背景】市内感染者が発生した直後から市民の行動変容を促す必要があると考え、首長自らが先頭に立って強いメッセージを発信した。

【工夫】とにかくスピードを重要視し、市内第一感染者の発生から数日の内にポスター掲示やTVCMの放映を行った。



##### ●とやまシティラボ推進事業

【概要】未来共創拠点施設「Sketch Lab」を活用し、産学官民の連携を推進することによりWith/Afterコロナ時代を踏まえたイノベーションの創出を図る。

【背景】当初は地域課題解決のためのイノベーション創出を図る予定であったが、コロナ禍により、「新しい生活様式」への移行に伴う市民生活上の課題解決を優先とした。

【工夫】本事業を実施するにあたり、オンラインツールと官民共創手法を積極的に活用するとともに、他の共創スペースと連携するなどの工夫をしている。具体には、オンラインにより距離的な制約を克服し、富山とシリコンバレーをつないで起業マインドを学ぶ交流会を定期的に開催している。また、本市の大きな課題であるWithコロナ時代の賑わいづくりのあり方について官民共創手法により検討するプロジェクトを実施している。



市単独事業分 : 交付限度額計 5,969,717千円(第1次・第2次・第3次補正予算分)

※この他、国庫補助事業分として、対象事業の地方負担額に算定率を乗じたものが措置される。